

松本市立菅野小学校

簡単木工・自然遊び

《五感磨き型学習》

2019 年度
中信地区環境教育ネットワーク
(ee ネット) 登録団体
学習実践例

授業名：自然素材で簡単工作

学校名：松本市立菅野小学校
学年・人数：2 学年 3 クラス 100 人
日時：9 月 18 日 8:50 ～ 11:35
45 分 × 3 クラス
講師：NPO 法人 わおん♪
主な活動場所：各教室

こどもと先生のねがい

- ・ 50 周年で伐採した桜の木を活用しての工作。
- ・ 工作の工夫を支援してほしい。道具の使い方を教えてほしい。
- ・ 木に触れる良さを伝えてほしい。

こんな学習を。。。

- ・ 桜の木（50 周年で伐採）の説明
- ・ 木の輪切りを紙やすりでやする。手触りの体験
- ・ 絵を描き、ヒモをつける

気を付けること

紙やすりの使い方

当日の様子

【実施概要】 50 年前創立当時に植えられた校庭の桜の木が、50 周年を期に植え替えとなり、そのときに伐採された枝（自然素材）を利用して、キーホルダー作りを行った。

【実施状況】



はじめに、講師の山田さんより内容の説明をしていただきました。

「50 歳の桜の木を、紙やすりを使ってきれいに磨くよ。」

聞いただけでは、イメージはわからないはずだからと早速輪切りを配り、

「裏と表で触った感じが違うから確かめて。」

五感を磨くことの大切さを伝えられました

「ほんとだ、ぜんぜんちがう。」

「すべすべだ。」

手順を端的に説明していただき、紙やすりが配られると、夢中で磨き始めた子どもたちでした。



つるつるになるまで、磨き上げる子どもたちに、山田さんが「いいねえ。」「すごいね。」と声かけをされ、益々熱心に磨こうとする子どもたちでした。



「磨いていくと、木の香りが強くなるよ。」と山田さんが話されると、木の香りをかぎ、「ほんとだ。いいにおい。」
「木のおいがする。」
と、さらに磨き上げようとする子どもたちでした。



最後に紐を通して出来上がりです。この紐を結ぶというの、細かい作業なため、2年生には大変に感じる子も少なくありません。それでもブンブンゴマで紐を結んだ経験を生かしながらかちらも丁寧に仕上げました。

仕上がりに大満足で、講師の方と記念写真を最後に撮りました。早速、大事そうに持ち帰って行った子どもたちです。

☺ 子ども達の感想

- 紙やすりでみがくと、こんなにつるつるになるんだ。
- 紙やすりでみがくの面白い。
- 桜の木だから、記念にさくら描こう。
- 学校の桜なので、記念に学校のマーク(校章)描こう。
- 令和元年に作ったから、令和って描こう。
- いい記念になった。
- 磨くのは大変だったけど、簡単にできたから楽しかった。

☺ 先生方の振り返り

- 学校の桜の枝という身近な自然素材を、輪切りに加工し、2年生の子どもたちでも簡単に工作の楽しさを味わえるように、2種類の紙やすりを準備していただけてありがたかったです。
- ボスカや紐の準備も含め、手順もシンプルに1時間の授業の中で展開していただき、短い時間の中で十分楽しみながら学習することが出来ました。
- 丁寧に桜の木の輪切りや穴あけ、彩色用のボスカや紐などもご準備いただき、どのクラスも集中して学習に取り組みました。
- 身近な素材を活用しているため、興味も広がっていたこと、2種類の紙やすりで丁寧に磨いていくことで、手触りがどんどん変わっていくことを実感したり、木の香りを感じたりと自然の良さを工作活動を通して体感できるプログラムでした。

☺ 講師の振り返り

みんな元気でどんどん取り組んでくれて良かった。紙でやするといっても簡単な工作でしたが、「楽しい」と感じてもらえることができたようでうれしい。工作の好きな子ども達のようなので、学年が上がるにつれてどんどん難しいものに取り組んでくれるといいなと思います。

☺ コーディネータから

わずか45分の間に、木に触れ、やすり、絵を描き、作品を仕上げるという一連の作業がスムーズに行われました。子どもたちが元気でお互いに声をかけあって助け合っていたこともありましたが、講師のほうも、声かけのタイミング、材料、資材の準備など万端で、さすが慣れていました。

授業名：自然体感プログラム

学校名：松本市立菅野小学校
学年・人数：2 学年 3 クラス 100 人
日時：10 月 28 日 8:50 ～ 11:35
45 分 × 3 クラス
講師：NPO 法人 わおん♪
主な活動場所：校地内

こどもと先生のねがい

匂いを嗅ぐなど感覚を養う。

ネイチャーゲームなどを使って五感を鍛え、使っていけるようにする。

こんな学習を。。。

ネイチャーゲームなどを使い、五感を使って自然を感じる。

気を付けること

ハチの巣、ハチ対策

当日の様子

- 【実施概要】
- ① 自然の中で同じ色を探そう。
 - ② 万華鏡づくり

【実施状況】



【自然の中で同じ色を探そう】

はじめに、講師の山田さんより、色カードが配布され、「周りで同じ色を見つけてごらん。」と投げかけてもらいました。



「あの木（ヒマラヤスギ）の色は？」「緑」

「でも、全部同じ？」「黄緑もある。」

そこで、色カードの確認です。

「これは？」「緑」

「じゃあ、こっちは？」「黄緑」

「同じ色あるかな。」夢中で葉っぱや石などを見つけました。

「黄土色もありそう。」「ネコジャラシが同じだ。」

「青がない・・・」

遊具の色とも違う伝統色の青だけに、南庭になかなかなく、困っていると、「見回してご覧」と山田さんよりアドバイス。ぐらりと見回して「空」「あ、山の色」「いいねえ。」と遠くにも同じ色を見つけました。



【万華鏡つくり】

色の関心が高まったところで、山田さんから「この集めた葉っぱとかで万華鏡を作ろう」

と提案されると、ワクワク感がさらにアップでした。ペアにキットが配布され、早速、レンズの中に入れていく子どもたち。「うわあ、きれい」



「見てみて!」と葉っぱをちぎって出来上がると、次々に山田さんや担任のところへ見せにきました。

簡単に出来る万華鏡の仕上がりに大満足で、キットが百円ショップで購入できることを講師の方から聞くと、「うちで買ってもらおう!」とやる気いっぱいでした。



子ども達の感想

- 身近なところにある葉っぱもよく見ると同じ葉っぱの中でも色が違う。
- すぐ見つかる色となかなか見つからない色もある。
- 他の場所でも色を探してみたい。
- 葉っぱや石や実も万華鏡に入れるとすごくきれいになる。
- 自分で作ってみたいくなった。
- 作った万華鏡もって帰りたいかった。
- 簡単に出来るから百円ショップでキットを買って作りたい。

☞ 先生方の振り返り

○庭にある身近な自然素材である葉っぱや実、石などを、見て、触って、見比べてと体感を通して触れていくことで、「よく見なさい」とあえて言わなくてもジーっと夢中で探し、見るようになる子どもたちの姿に、自然体感プログラムの良さを感じました。

○配色カードも見やすく使いやすいサイズにラミネートされていて、低学年の子も簡単に扱うことが出来、教材の作り方も参考になりました。

○配色カードも万華鏡もペアで一つというのも、それはそれで自然とコミュニケーションを働かせられ、良かったと感じました。

○日ごろ遊びや学習の場として馴染みのある庭であったが、視点を変えると見方考え方も広がるということを学ぶことが出来ました。1時間があったという間な中にも夢中になった良いプログラムでした。

☞ 講師の振り返り

- ・みんな元気でよかった。時間がたりなかったが、意欲的に取り組んでもらえた。
- ・チャレンジしよう、やってみたいという気持ちが出てくるとハードルは下がる。
- ・協力して一つの作業をすることで、普段とは違ったつながりや思いやりを引き出すというのもプログラムの狙いの一つ。
- ・うまくいったのではと思います。

☞ コーディネータから

色探し、万華鏡の材料探しで、子どもたちは、ふだんあまり観察することは無いだろう場所、中庭の隅々まで目を凝らして動き回っていて、自然観察の手法として、なかなか優れ物のプログラムだと思いました。

合図の「ぶ～」という音や、万華鏡、色台紙などの小物に子ども達の気持ちを引きつける小ワザが効いていて、わおんさんらしく、楽しい活動になっていました。